

食物たんぱく誘発胃腸症

お話を監修 野村伊知郎 先生

国立成育医療研究センター 好酸球性消化管疾患研究 室長/アレルギーセンター医師。日本アレルギー学会指導医、日本小児科学会認定指導医。

今、話題のあれこれ取材!

子育てTOPICS

新生児期~乳幼児期に、ミルク・母乳・卵などの原因となる食物をとると下痢や嘔吐を繰り返すタイプの食物アレルギーが、2000年ごろから世界的に急増しています。その症状や治療について取材しました。

イラスト/福土陽香 文/早川奈緒子 デザイン/store inc.



約500人に1人の赤ちゃんが発症!? 離乳食開始ごろに増えている消化器症状がメインの食物アレルギー

卵黄が原因での発症が増加。下痢や嘔吐を繰り返す

「食物たんぱく誘発胃腸症」とは、新生児期〜乳幼児期に、ミルク・母乳・卵などの原因となる食物をとると、数時間後から数日後に何度も吐く、血便が出る、体重が増えなくなる、下痢が長く続くなどの症状が出る病気です。アレルギー専門医の野村伊知郎先生に詳しく聞きました。

「『食物たんぱく誘発胃腸症』は2009年の東京都の全数調査でおよそ500人に1人の乳幼児が発症しているとわかっています。以前は『新生児・乳児消化管アレルギー』と呼ばれ、2015年ごろまでは新生児期のミルクが原因となることが多かったのですが、最近では離乳食開始のころに卵黄が原因となる患者さんが増えています。世界的にも患者数は増加しています。原因となる食物は国によって少し異なります。アメリカでは小麦、オーストラリアでは米、イギリスやイタリアでは魚類の頻度が高いと報告されています」

即時型の食物アレルギーは、原因となる食物を摂取すると1〜2時間以内にじんましんや発疹などの反応が現れ、重篤なものではアナフィラキシーショックが起これることも。一方「食物たんぱく誘発胃腸症」は即時型とは異なり、見た目や検査でわかりにくいのが特徴です。

「この病気の典型的な例は次のようなものです。『離乳食を開始し、かたゆでにした少量の卵黄を何度か与えたときには症状は出なかったが、2週間後に再びかたゆでにした卵黄を与える」と数時間後に何度も吐き、顔が青白くなった。小児科で血液検査をしても、卵白や卵黄に対するアレルギー反応は陰性で、卵アレルギーではないと診断。数週間後にまたゆでた卵黄を与えたら、繰り返し嘔吐し、ぐったりしてしまっただけでなく、原因がわかりにくく、なんの病気だろう、と悩むママやパパが増えています」

原因不明で栄養がとれないと、体重が落ちてしまうことも

この病気は食道から直腸までの消化管のどの部分が炎症を起こすかによって、発症までの時間や症状が異なります。

「炎症を起こす場所が胃だとしても吐き、小腸だと下痢を起こして栄養がとれず、体重が増えない、大腸だと下痢や血便の症状が出ます。数時間後、遅い場合は数日後に発症するため、原因となる食物がわかりにくいのが怖いところ。また発症のメカニズムもまだ十分に解明されていません。体重が増えず、元気がなくなっても、原因がわからず症状が重くなった場合、赤ちゃん自身がつらいことはもちろん、発育への影響が出ることも心配です」

治療は原因食物の摂取中止。一度治れば再発はしない病気

治療の基本は、原因食物の摂取を完全に除去することです。「原因食物の除去を適切に行えば、多くの場合は3才までに治ります。再発は非常に少ないので、主治医と相談し負荷試験などを行って、摂取可能と判断されたら、原因食物だったものも飲食できるようになります」